

平成 26 年度 糸魚川市生活科部 活動報告

部長 江口 聡

1 研究主題

「豊かにかかわり 自分を見つめ よりよく生きる子どもをはぐくむ」
～ 探求的な学習を充実させる協同的な学習支援をさぐる ～

2 研究の概要

上記研究主題に沿った実践を行い、実践記録と考察をまとめた冊子を作成し、市内各校に配付し、実践の交流に努めた。また、糸魚川東小学校N I E研究の 2 年生活科授業公開に参加し、協議を行った。

3 研究の実際

(1) 公開授業 10月9日(木)

第2学年2組 生活科 大単元名「つくろう ぼくらのかがやきのうえん」

小単元名 「やさいさいばいのおれいをしよう」

本時のねらい

- ・短冊を分類し、整理することで、管理員さんへの思いを深め、感謝の気持ちを共有する。
- ・栽培活動を振り返り、管理員さんのことを考えながら、伝えたい内容を選ぶ。

(2) 協議

- ・新聞を使う必要性がよく理解されており、なぜ新聞がよいのか発表することができた
- ・写真、短冊、ホワイトボードの活用で意見を整理することができ、友達の考えも共有できた。
- ・教師の言葉がけや活動の想起から、管理員さんに感謝の気持ちを伝えたい思いが強まった。

(3) 講演：新聞で変わる教室の風景（新潟工科大学教授 高田喜久司 様）

- ・新聞を授業に取り入れることによって①教科書の中に閉じこもりがちな授業からの脱皮②生き生きとした授業の実現③学習意欲や学ぶ力を育てるなどが期待される。
- ・新聞を取り入れることにより①記事の要約や自分の考えを書くことにより、表現力が豊かになる。②豊かなコミュニケーション力を生かし、自ら高めていける子どもを育成することができる。
- ・何よりも、教師のカリキュラムデザイナーとしての力量が高まる。

4 成果と課題

- ・授業研究や実践報告集作成を通して、会員の生活科・総合的な学習における指導力が高まってきている。
- ・ジオパークという素材をどう単元に生かしていくかの検討。
- ・幼保小中連携したカリキュラムが編成されるとよい。